

見つけよう！みんなが地域でできること ～循環型社会の実現に向けて～

事業報告

I 事業概要

本事業では、環境問題の概論、委員会が考える環境対策の条件、JCが取り組むべき環境対策の実例についての情報提供を実施し、またNPO法人川口市民環境会議 代表理事 浅羽理恵氏から川口市における環境対策運動の実例について情報提供して頂いた後、その情報を基に、参加者に「自らの地域でどんな環境対策事業ができるか」について約1時間のディスカッションをして頂きました。各情報提供の目的と内容は次のとおりです。

委員会からの情報提供

① 環境問題の概論

目的：参加者へ環境に対する問題意識を再認識してもらう

内容：私たちの生活（経済活動）がどれほど地球環境に負担をかけているかを説明

② 委員会の考える環境対策の条件説明

目的：ALL TOKYOとして同じ方向に進むように、基礎部分を共有してもらう

内容：循環型社会の定義、それに向けた環境対策事業を実施する際のキーワードを説明

③ 委員会が求めるJCが取り組むべき環境対策の実例

目的：ディスカッションでどんな事例を考えたら良いのか的を絞ってもらう

内容：フードマイレージを使った地産地消推進、フードドライブを使った食材再利用

浅羽氏からの情報提供

④ 川口市で取り組んできた環境対策事業の実例紹介

目的：環境対策事業・運動の手法を知ってもらう

内容：現在どの程度まで運動が発展し、それがどれ程環境に貢献しているかを紹介

ディスカッションのテーブル数は10テーブル、1テーブルの人数は5～6人とし、そこに委員会メンバーがテーブル補助係として各テーブルに1名付きました。テーブル補助係の役割は、テーブルのコーディネートではなく、あくまでも進行補助とし、参加者が自由に意見交換できるよう心掛けました。

最初の5分間で、テーブル内での役割決め（進行係・まとめ係・発表係）と自己紹介を行いました。役割決めはジャンケンとし、自己紹介では、日常自らが環境に対して心掛けている事柄を1つ挙げながら自己紹介して頂き、初対面の参加者に対するアイスブレイクを図りました。

10分間のブレインストーミングでは、とにかく参加者に思い付いた環境対策のアイデアをどんどん付箋に書いて頂きました。その際、何の資源採取抑制に繋がるかを考えて頂き、循環型社会実現に向けた取組みという枠から外れないようにしました。

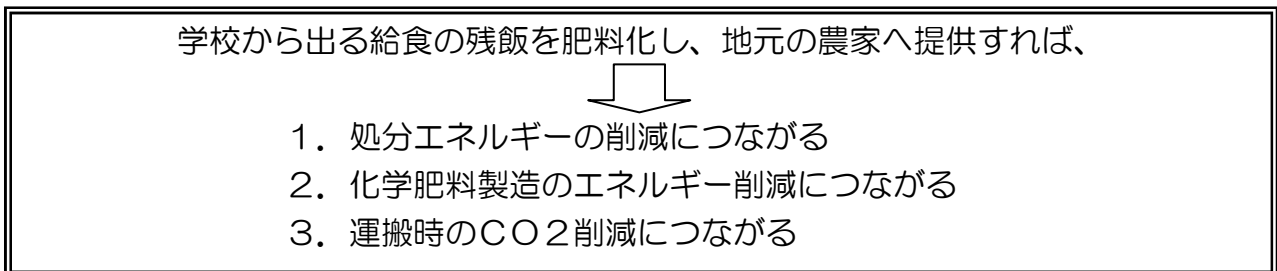
次の15分間で、それぞれが考えた環境対策のアイデアを順番に出し合ってもらい、テーブル上の模造紙に貼り出して頂きました。貼られた近いアイデアを考えた方は、自らの付箋を貼られた付箋の近くに貼って行き、グループ化して行きました。グループ化の際には、採取が抑制できる資源ごとにグループ化したり、家庭か会社かなどどの分野で取組める事業かという括りでグループ化したりしているテーブルが多く見られました。

次の25分間で、貼り出された環境対策のアイデアを、実際に地域で事業化・運動化するには、どのようにしたら良いかを意見交換して頂き、様々な案を組み合わせながら、2つの事業案を作り上げて頂きました。

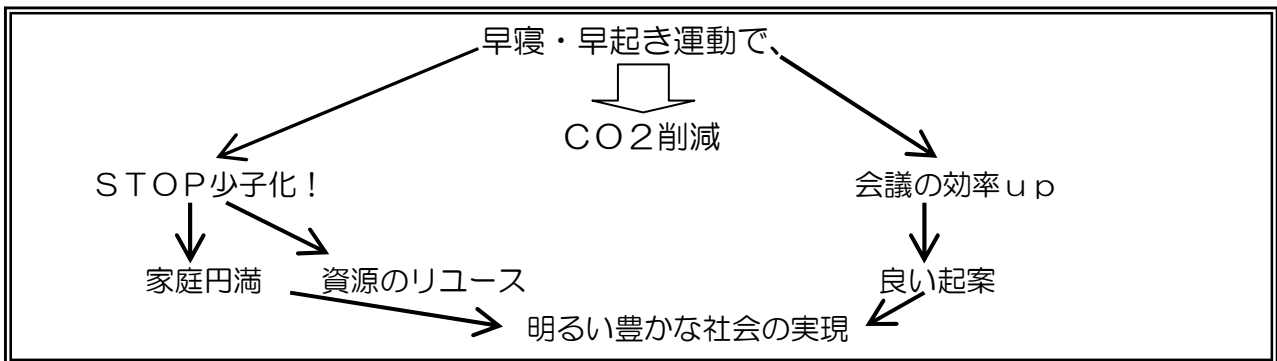
そして最後の5分間で、まとめ用紙に記入して頂きました。まとめかたは「〇〇をすれば、△△の資源採取が抑制できる」という形にして頂きました。それぞれのテーブルから発表して頂いた事業案は、次のとおりです。

Ⅱ ディスカッション結果

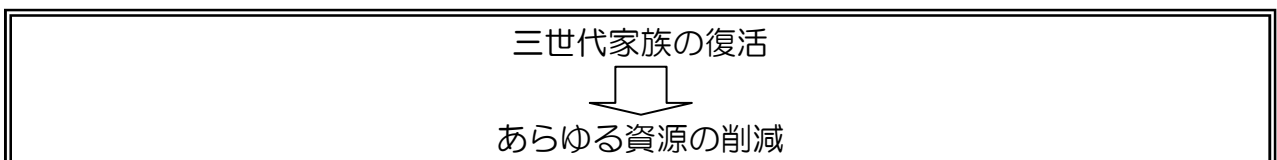
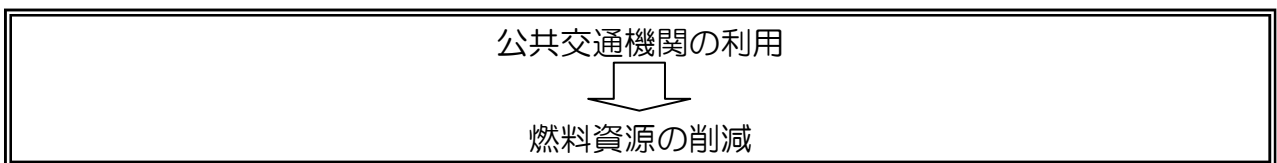
Aグループ



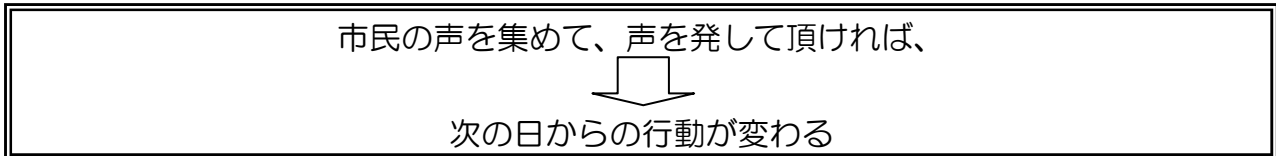
Bグループ



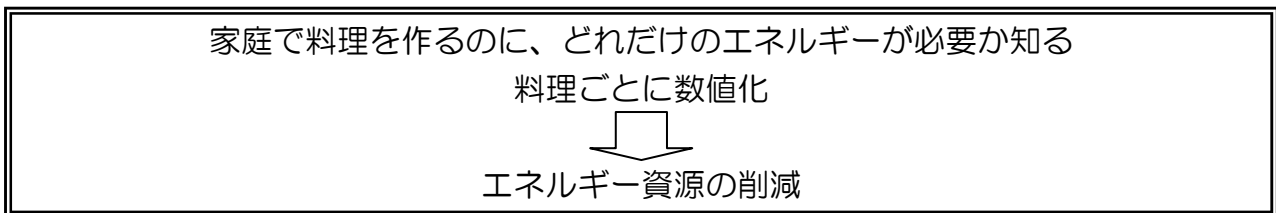
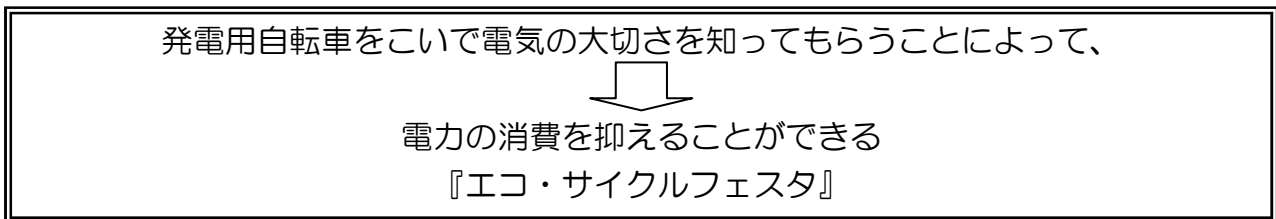
Cグループ



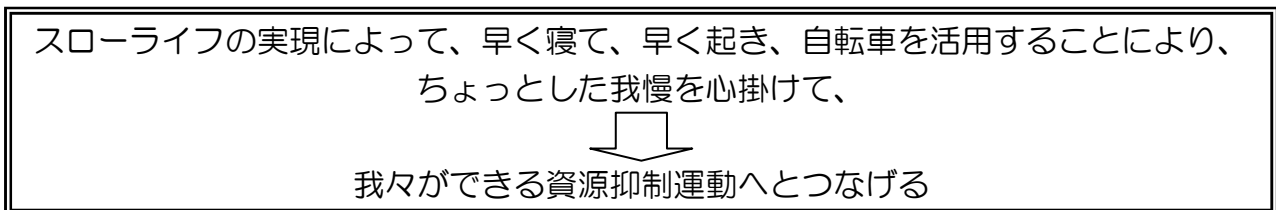
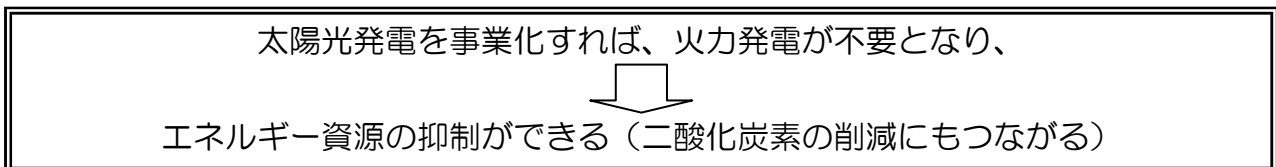
Dグループ



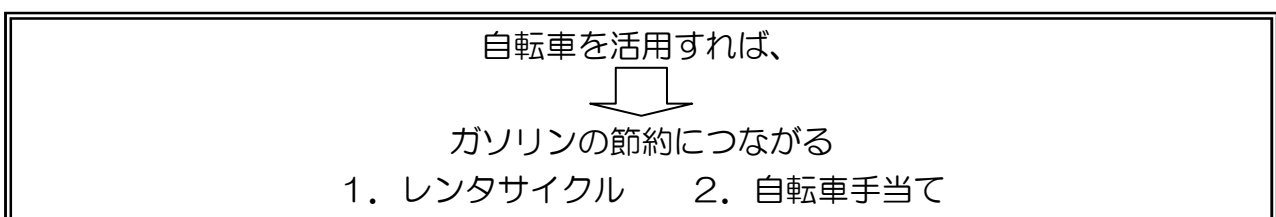
Eグループ

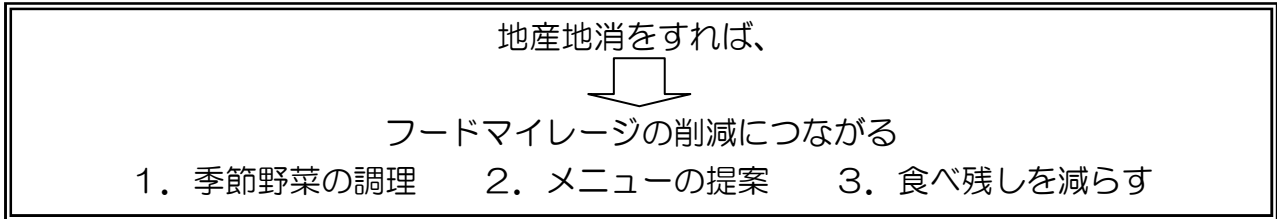


Fグループ

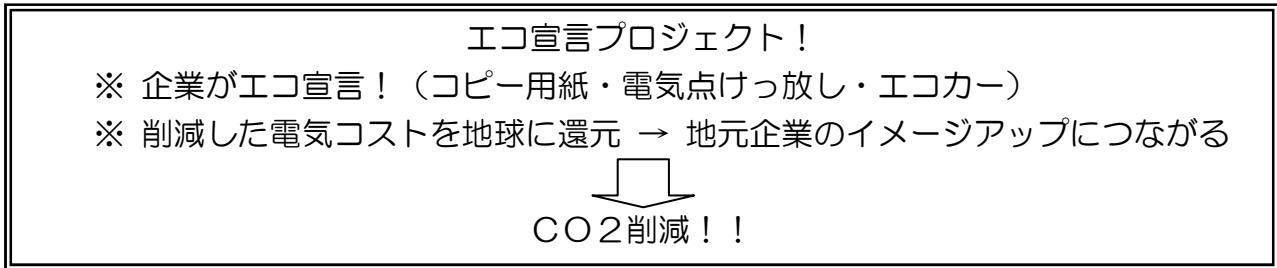


Gグループ

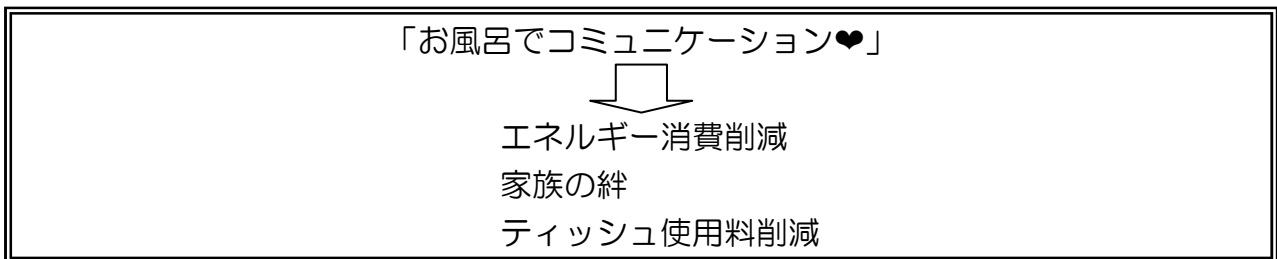
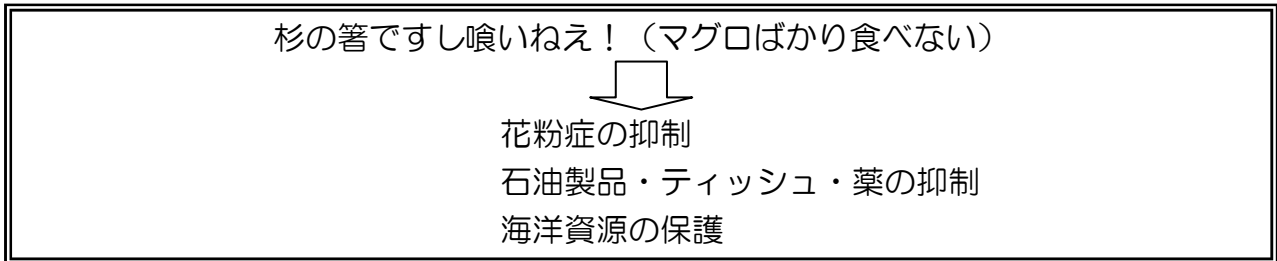




Hグループ



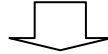
Iグループ



Jグループ



マイカップ運動を推進すると



森林資源と石油資源の採取が抑制できる

いろいろなチェーン店や飲食店に、マイカップを使わせてもらうように運動する

Ⅲ 浅羽氏からの講評

各テーブルからの事業案発表後、時間に余裕があったため、講師の浅羽氏より感想を頂きました。以下要点のみ記載します。

- ・環境事業を難しく考えず、楽しく行って欲しいこと。
- ・早寝・早起きなど、身近にできる運動は、すぐにでも取り組んで欲しいこと。
- ・食に関する案も多かったが、その問題意識を是非とも運動に繋げて欲しいこと。
- ・太陽光発電の事業化など、地域と協働で行うには、是非取り組んで頂きたい案が多くあったこと。
- ・JCが持つパワーをもっと活かして欲しいこと。

Ⅳ アンケート結果の検証

- ・委員会からの情報提供は大方理解して頂けたようですが、もっとパワーポイントを重視したプレゼンにし、シンプルにしたほうが、参加者の理解度を高められたと考えられます。同時に、数値をもっと提供、例えばCO₂量排出量を表したほうが、参加者には分かりやすかったと考えられます。
- ・講師の浅羽理恵氏からの情報提供は、委員会からの情報より理解度が高かったと言えます。しかしながら、お話し頂く時間が短く、紹介した各事業例をもう少し詳細にお話し頂く時間を設けたほうが良かったのではないかと推察されます。
- ・ディスカッション前に情報提供することは、多くの参加者にディスカッションの目的を把握させることができたと考えられ、また情報提供の内容も役立ったと言えます。
- ・今後の環境対策事業実施を、実に93%の参加者が前向きに考えていることは、環境対策事業開催を推進していく東京ブロック協議会としては、大変心強い回答であったと言えますし、ほぼ全てのLOMで環境対策事業を実施できる土壌があることが判明したと言えます。
- ・「すぐにでも実施したい」「実施したい」とお答え頂いた方の理由を見ても、「環境対策が大切だから」という感覚的理由の他にも、「既に地球がおかしくなっているから」「地球に住まわせて頂いているから」等、地球人としての自覚と責任を挙げている方もおり、環境に対する意識の高さを物語っているとと言えます。また環境対策事業を環境事業としてだけでなく、まちづくり事業としてや継続事業として捉える意見もあり、JCとして取り組みやすいと考えていることが窺い知れました。
- ・「よく分らない」とお答え頂いた方の理由の中に、「経済との結びつき、お金との関連性、動機ややる気をもっと上げて欲しい」という意見があったことから、環境と経済との両立が図れるような情報の提供、経済的インセンティブが表された事業例の紹介がもう少し必要であったことが反省されます。

- ・今後どのような事業をやっていきたいかについては、ディスカッション結果と同調する傾向がある中で、一個人として取り組むべき環境対策、JC内で取り組むべき環境対策、JCが市民に向けて取り組むべき環境対策がほぼ均等に挙がっており、市民向けの環境対策事業の開催を推進していくと同時に、もう少しJCメンバーの環境に対する意識の醸成も図っていかねばならないことが推察されます。
- ・今回の事業に対する自由意見では、事業を前向きに感じて頂いた方からの意見という偏りがあるかもしれませんが、「楽しかった」という意見が多く見られたことから、ディスカッションという楽しさを付加したことにより、委員会のメッセージが伝わりやすかったと考えられます。
- ・ただその中でも「もっと一般の方々と一緒にグループディスカッションができれば良かったと思います」など、外部団体への動員面で反省すべき点があったと同時に、そうした外部団体の方々からJCに対する大きな期待の表れとなる意見があったことから、外部団体の方々との協働をもっと推進していかねばならないことを窺い知ることができました。

V 事業を振り返って

東京ブロック協議会は、本年度川島会長の所信にもあるとおり、運動体としての軸と支援体としての軸の二軸を持っています。

東京ブロック内24会員会議所へ環境対策運動を普及させようという運動体としての側面からみた場合、今回の事業は意義あるものになったと思います。提供する情報に委員会としての恣意性を持たせ、「新たな資源採取を抑制する」という点に的を絞って説明したことにより、ほぼ全てのテーブルで資源の削減・抑制に繋がる事業案へと導くことができ、ALL TOKYOとして、「ここに向かって環境対策事業を推進していく」という方向性を示せたと考えます。

もう一方の24会員会議所への支援体としての側面からみた場合、参加者の所属LOMに若干の偏りがあったものの、多くのLOMに環境対策についての基本情報を共有させることができた点では、意義のあるものとなったと思います。参加者にとっても「資源を大切にしよう」「地域でもやってみよう」との意識が共有できたのではないかと思います。

また、今回の事業を通じて、参加者の環境問題、環境対策への知識レベルが想像以上に高いことを知ることができました。日頃からテレビ・新聞・インターネット等々で環境についての情報を得ている上、環境の事業に参加するという機会を与えることにより、少なくとも普段は何気なく見ていた情報、聞いていた情報に、改めて問題意識を持って目を向け、耳を傾けるようになっていたのではないかと推察できます。

ディスカッションの結果、アンケートの結果にも記載がありましたが、今回のような参加者に環境対策について討議して頂く場の提供自体も、地域での市民向けの事業になり得ること、LOM内でメンバー向けの事業になり得ることを、改めて感じさせられました。

今後、6月事業で、フードマイレージを使用した地産地消の推進によって化石燃料資源の採取抑制を目的とした事業を、24会員会議所へ環境対策事業の具体例として実施し、さらに9月事業では、24会員会議所に推進して欲しい環境対策事業を数種類提案する予定ですが、今回のディスカッションで頂いたアイデアを、それぞれのLOMの意向として参考にさせて頂きながら、より循環型社会の実現に向けて、発信性の高い、取り組みやすい事業を考案し、東京から日本を変える可能性に挑戦して行きたいと考えています。